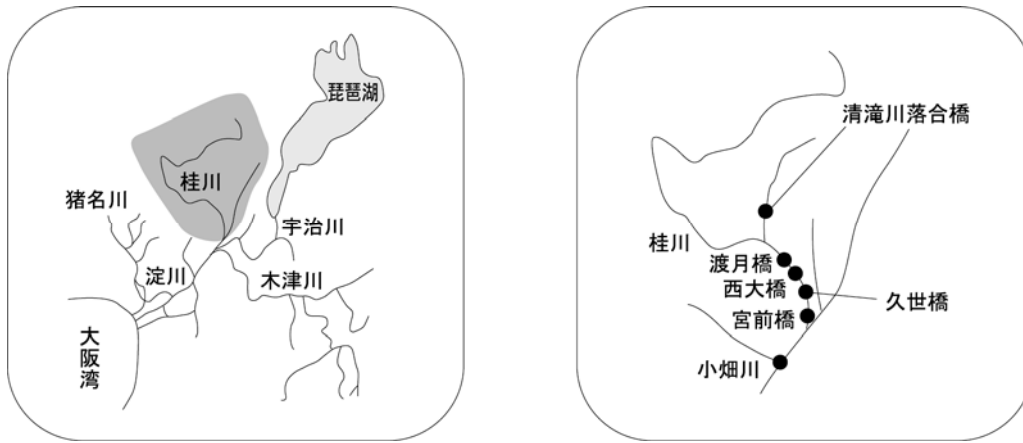


4. 桂川

桂川の水質は、上流域での開発、京都市内からの工場排水、生活排水の流入によって、著しく悪化していたが、近年は京都市内の下水道整備の進捗および工場排水規制強化等によってかなり改善されてきている。



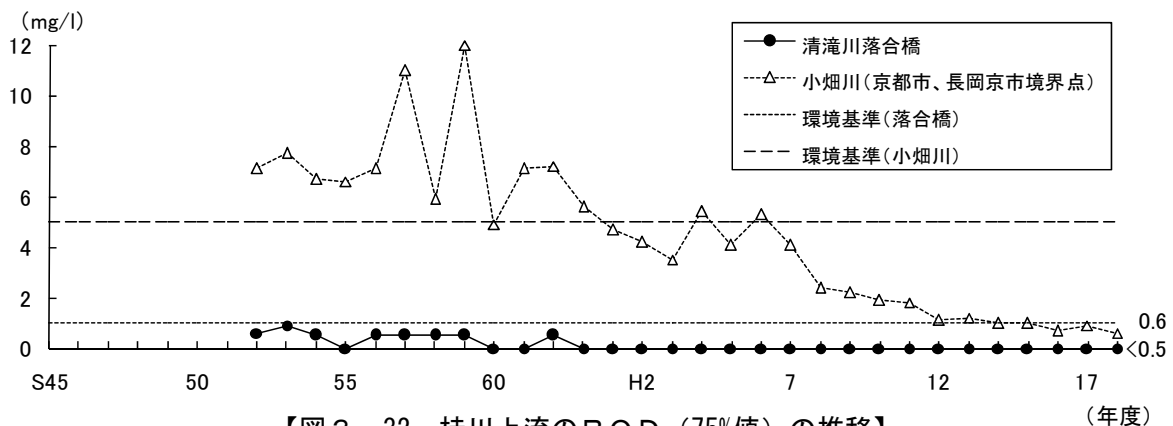
(1) 桂川上流の河川

上流の清流である清滝川のBOD（75%値）は、落合橋で1mg/l以下で推移し、平成4年度以降現在まで報告下限値（0.5mg/l）未満と極めて清浄である。小畑川では昭和57年度、59年度にピークを示したが、その後改善されてきており、平成18年度は0.6mg/lであった。両地点ともに環境基準値を下回っている。

清滝川落合橋でのアンモニア性窒素は高いときでも0.07mg/lで、ほとんどが0.01mg/l程度で推移しており、平成18年度も0.01mg/lと極めて良好な水質であった。小畑川では昭和62年度に1.2mg/lと高い値を示したが、以後改善され、平成3年度に0.19mg/lまで低下していた。その後再び悪化したものの、平成8年度以降は改善され、平成18年度は0.01mg/lとなっている。

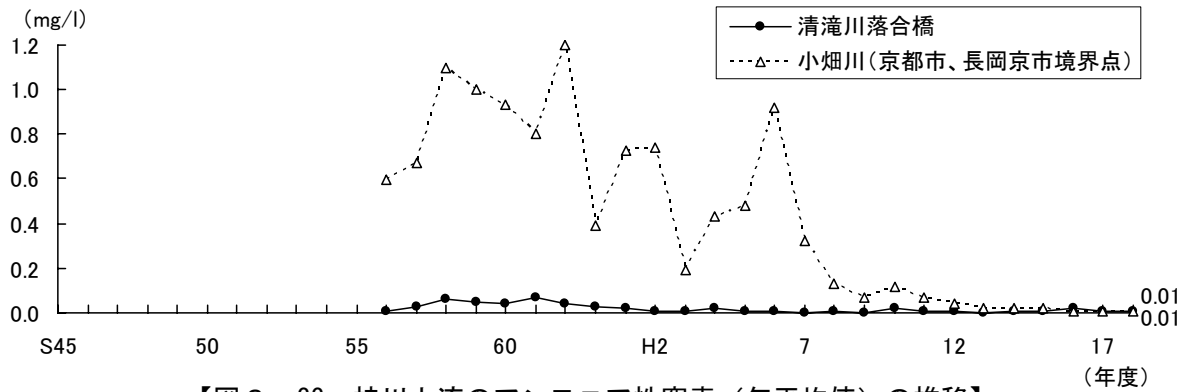


【桂川上流（清滝川落合橋）】



【図3-32 桂川上流のBOD（75%値）の推移】

京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成 詳細は資料3-10を参照



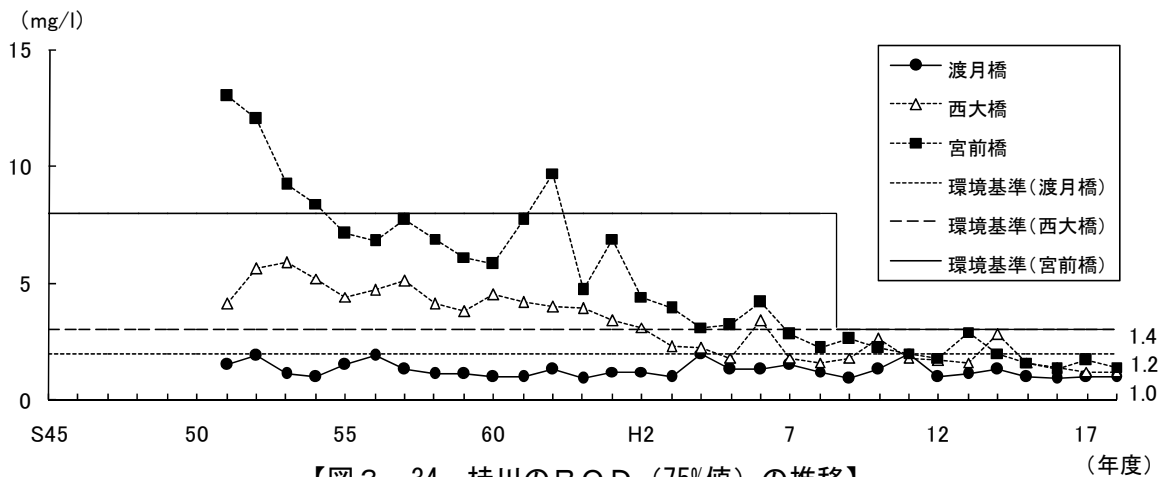
【図3-33 桂川上流のアンモニア性窒素（年平均値）の推移】

京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成
 詳細は資料3-11を参照

(2) 桂川

渡月橋のBOD(75%値)は昭和50年度から横ばい傾向を示し、平成18年度は1.0mg/lであった。西大橋では昭和53年度まで増加傾向であったが、その後改善されてきており、平成18年度には1.2mg/lとなった。宮前橋では汚濁の著しかった昭和50年代前半は10mg/l以上を示したが、その後改善されてきており、平成18年度は1.4mg/lとなった。いずれの地点も環境基準を下回っている。

アンモニア性窒素(年平均値)については、渡月橋は昭和47年度に4.20mg/lと高い値を示したが、それ以降はほぼ0.1mg/l前後で推移しており、平成18年度は0.08mg/lであった。西大橋では平成6年度以降ほぼ横ばいの状態で、平成18年度は0.04mg/lであった。宮前橋では昭和58年度に3.46mg/lであったが、京都市内の下水道整備と運転管理の改善等によりその後急速に改善され、平成5年度以降はほぼ横ばいで推移している。平成18年度は0.13mg/lであった。



【図3-34 桂川のBOD(75%値)の推移】

京都府「公共用水域及び地下水の水質測定結果」より作成
 詳細は資料3-10を参照